

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年5月30日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・0歳児「花（ペチュニア）を見て、触ってみよう」

<テーマ設定理由>

一年を通して様々な種類の『自然』を感じてもらえるようにしていきたいと思い、今回は『花』を題材にしていった。

2. 活動スケジュール

保育室内でレジャーシートを敷き、そこに雨粒のついた花が咲いている植木鉢を用意した。子ども達が植木鉢に興味をもち、触ったり見たりする様子を見守った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

花の咲いた植木鉢、レジャーシート

4. 探究活動の実践

<活動内容>

花が咲いている植木鉢を用意し、子ども達がそこに集まりそれぞれ触ったり見たりできるようにした。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

花が目の前にある→A児：顔を花の方へ向けて花を見ている。保育者の膝に座ったまま花や友達を見ている。
 →B児：這う姿勢で見ている子どもは頭部を起こして葉や茎、花の部分へ視線を移している。次第に手を伸ばして触れようとする。這い進み、手を伸ばし葉の部分に触れる。
 →C児：離れたところから見ているが、近寄らず別の場所に視線を移した。
 →D児：保育士の膝に抱かれながら花を見ている。
 →E児：離れたところから近づいて一瞥するが、また離れていく。

花に触れる
 →B児：何度か手を伸ばしては手を引っ込める。次第に葉の部分に触れ続ける。
 →D児：自ら手を伸ばし花に触れる。
 →E児：集まってる友達の傍らに来て座り、花を見ている。
 →C児：明らかに関心をもって花に近づき、上から眺めている。

花についていた雫に触れる
 →C児：保育者が触れた花びらから雫がしたり落ちる様子を何度か見たのち笑った。
 B児：葉の部分に触れ続けている。花の部分に手を伸ばし花に触れる。

雫で濡れた保育者の手を見る。
 →C児、D児はその様子を見ている。

雫が付いた保育者の手に触れる
 →D児：指先で濡れた保育者の手に触れる。

保育者が花の位置を動かす→受け皿に水が滴り落ちた
 →C児：水が滴り落ちる受け皿を見ている。その様子を見て笑い声をあげる。
 →D児：保育者の膝から降り、花の方へ進みでる。花に触れようと手を伸ばし花に触れた。

花を見ている
 →B児、D児は花を見続けている。
 →E児：自ら花に近づいて花の部分に一瞬触れた。
 雫で濡れている保育者の手を何度も触った。

花に触る
 →D児、B児は何度も叩くように花に触れる。
 土の部分に触れる→D児：土に植えてある部分に気づいて触れる。
 花びらに触れる →B児：花に手を伸ばし花びらに触れ続けている。
 花をつかみ、花を引っ張ってちぎる。
 →C児：再び花に近づいて座って花に触れる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・本来は保育室から出て園庭や園外で見つけた花を見たときの子どもの探究活動を実施すべきではあるが、対象が0歳児ということもあり、保育室に花を持ち込んで探究活動を行った。
- ・0歳児という年齢としての配慮として子ども達に気づいてもらうために活動開始は子どもを集めて花の周りに集まった。
- ・0歳児という年齢では自ら気付くのは難しく、目の前で見えているものに大きく反応していて、その物が「花」という認識があるかわからないだろうが、興味をもっていると感じた。
- ・少なくとも不快に感じている様子はなく、「何だろう」「触れてみたい」と、周囲に集まった子どもは眺めている。次第に近づいてきて手を差し伸べて触れていた。
- ・大人がから見て美しい、きれいと感じることを子どもにも見せたり、触れさせてみたりすることは、美しさを共感して美的感性を育む上でも大切なことと感じた。そうした大人の反応から子ども達も安心して触れるようになったのでは。
- ・触ってみることで柔らかく葉が動いたり、花が取れてしまうことがあると知ったのではないかな。
- ・興味を持って花や土にも触れている子がいる中で、直接花に触れていない子いたが、じっと見ていたり指差しをしていたので、何かを感じているのではないかな。
- ・花びらについていた水滴（雨の雫）で手が濡れた時の指や手に感じる感触を感じた（気づいた）子どももいたようだった。
- ・子どもは面白いと気付いた時に歓声を上げたり、何度も叩くような仕草を見せて触ること自体を楽しんでいる様子だった。
- ・探究活動の中で、「ぼたぼた」という表現を保育者が使っていたので、イメージを固定化する表現は避けた方がよい。
- ・「花をちぎる」「土に触れる」仕草を一瞬制止するような保育者の対応が見られたので、子どもの自由な探究活動を制しないようにすることが必要であると感じた。